

■ 2009年度 入試問題分析シート ■

千葉大学

前期日程

科目

生物

総括

試験時間	60～120分	難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
満点(配点)	150～600点	分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

〈総論〉

大問の選択数、生物学科以外進化と分類および生物の集団が選択になっている点も昨年度と同様である。字数制限のある問題が多く出題されている点、問題量とも例年どおりである。

〈特記事項・トピックス〉

現行課程になって扱われている調節遺伝子、選択的スプライシングが扱われている。マーカー遺伝子の問題は差が付きやすい。

〈合格への学習対策〉

難度の高いものや教科書を逸脱したものは、ほとんど出題されないもので、まずは標準的な知識を確実に身につけることが大切である。字数制限のある論述問題が多く、字数は非常に短いものや比較的長いものと様々なので簡潔にまとめる文章やある程度長く説明する文章などいろいろなタイプの論述問題に対応できるようにしておくことよい。データを分析する問題が多いので過去問だけでなく他の国公立大学の二次試験問題などで練習しておくことよい。

設問ごとの分析

問題番号	出題形式	範囲	分野・テーマ	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
1	選択 記述 論述 描図	I	循環系、血糖量調節	脊椎動物の循環系、心臓とペースメーカー、体液の成分、血糖量調節などの知識を問う	標準
2	論述	I	ショウジョウバエの卵形成に働く遺伝子	母親の極細胞と濾胞細胞の遺伝子が卵形成に影響することをもとに考える問題	やや難
3	計算 記述 論述	II	遺伝子の発現調節、遺伝子突然変異	真核生物の転写調節についての理解を問う。遺伝子突然変異により、どのようなことが起こるかの可能性を考える。選択的スプライシングの知識がないと分かりにくい問題が含まれている。	標準
4	選択 論述	I	ヒトの遺伝	家系図から病気の遺伝子の遺伝形式を考える。マーカー遺伝子の考え方があると解きやすい。	やや難
5	記述 論述	I、II	光合成	いろいろな環境要因の光合成反応への影響を考える。	標準
6	計算 論述	II	生物群集と生態系	生物の多様性の変化、環境問題(生物濃縮、オゾン層の破壊)を考える。	標準
7	記述 描図 論述	I、II	免疫	体液性免疫、細胞性免疫、抗体の多様性、拒絶反応などいろいろな免疫について考える。	標準
8	選択 記述 論述	II	植物の系統分類	植物の分類の基準の知識を問う。イチョウの精子形成に関する問題。	標準
9	記述 論述	II	森林の生態系	いろいろな森林の違いを問う。遷移による有機物蓄積量の変化。	やや易

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階(難・やや難・標準・やや易・易)で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。